



和歌山市、堀内義晃撮影



東京・永田町、西田裕樹撮影

大学入試の受験資格として米国の英語力試験TOEFL＝を導入することを4月、自民党の教育再生実行本部が安倍首相に提言した。もし実現すれば子どもたちの英語力は伸びるのか、教育現場はどうなるだろうか。提案者と反対論者に聞いた。

- ・使える英語は身につくか
- ・「グローバル人材」は育つか
- ・高校で受け入れられるのか

結果出てない。現場変えないと

自民党教育再生実行本部長・衆院議員

遠藤 利明さん

50年生まれ。山形県議から衆院議員に。当選6回。建設政務次官、文部科学副大臣、自民党国際局長などを務めた。

中学高校で6年間英語を学んだのに英語が使えない。コミュニケーションできない。それが現状です。これではもったいない。ならば変えましょうということ。どうやって変えるか。まず目標を決め、そこから逆算して教育の中身を決めていくことが確実です。探したら米国にTOEFLというテストがある。聴く・話す・読む・書くを全部測れます。130カ国で使われ、米国学びにつながるなど汎用性が高い。これを目標にしようというわけです。

わいやっている場での会話です。それが次の会合に生きてくる。でも悔しいことに英語で話せない。中高で6年もやったのに。そんな英語教育を直しましょう。まずは、センター試験から英語をやめ、TOEFL一本にする。何点を受験資格にするかは、それぞれの大学が求める学生のレベルに応じて設定すればいい。

もう一つ、英語教育を変えることでグローバル人材を育成しようという大きな目的があります。日本人は海外に行ってもなかなか活躍できない。しかも最近では留学する若い人たちが減っている。これをなんとかしたい。

なつた方がいいじゃないですか。私も副大臣や政務次官として国際会議に出ました。公式な会合は通訳がつきますが、大事なものはその前のあいさつから始まって、夜のパーティーとか、みんなでない

TOEFLが必須になれば、学校現場は変わらざるを得ません。使える英語を教えるようになりま

す。TOEFLは日本の高校生にはレベルが高すぎるし、目的が違

い方法があったら教えて下さ

出づつもります。



コラージュ上村 伸也 / The Asahi Shimbun

TOEFL (トーフル)

Test of English as a Foreign Languageの略。米国はじめ英語圏の大学や大学院に入学を希望する非英語話者の英語力を測る試験。米国の非営利団体のETSが開発。以前は筆記とリスニングだったが、現在はコンピューターを使って4技能を測るiBTという方式が主流。120点満点。似た名のTOEICはビジネス英語中心の国際コミュニケーション能力試験。同じETSが作成している。

グローバル人材イコール英語が出来る人、という見方は狭いし短絡的。日本企業が出て行く先も日本に来る外国人を見ても、英語圏とは限りません。

実は日本ほど教育現場が英語一色の国は珍しいのです。中学で英語が嫌いなと、高校でも英語

嫌いなと、さらに嫌になっ

たり学校が嫌になったりしかね

ません。英語以外の外国語を学ぶ

場を提供することも重要です。

政治が英語教育の後押しをして

くれるのなら、40人一斉型の授業

をやめてクラスの規模を小さくす

るとか、教員や教材を充実させる

とか、その方が有益です。

では授業で何を教えるべきか。

基本的な文法や音声、語彙などの

土台づくりと言語のおもしろさ

です。将来、留学や仕事などで英語

が必要になった時に、自力で頑張

れば伸びることが出来る基礎をつ

くっておく。それが学校教育の目

的。私も英語教師です。英語ができ

る日本人が増えたらいいなと思

います。遠藤さんも自助努力で必死

にやれば、国際会議やレセプション

で話せるようになります。どう

かお願いですから、学校教育に責

任を押しつけないでください。

(聞き手はいずれも編集委員・刀祢館正明)



学校教育だけで英語が話せるようになる、というのは幻想です。まずそのことをわかってほしい。「中学高校で6年間学んだ」と言っても、英語の授業時間は合計700〜800時間です。それで使えるようになるほど日本語と英語の距離は近くない。文法も発音も、あまりにも離れた言語です。TOEFLが問うのは会話力だけではありません。英語圏の大学や大学院の授業についていける英語力の有無を測るテストです。話す聴くだけでなく、長文をいくつも読み、筋道の通った英文を書かせるなど、高度の読む力と書く力が求められます。内容も文系

理系にまたがった教養が必要で

す。東大の入試問題や英検1級より難易度の高い問題も含まれます。もちろん学習指導要領には準拠していません。

このようなテストを入試に導入

したら、大半の高校の教育現場を破壊してしまいます。TOEFLには1万語水準を超す難解語が頻出しますが、指導要領が求める単語数は中高で3千語です。生徒は知らない単語だらけの文章を読まされ、英語がいやになってしまっ

でしよう。現状でも英語が嫌い

だ、わからない、という生徒が増

えているのに、その流れを加速さ

せるだけです。

今回の自民党の提言は「体育の

授業の目標を国体出場レベルにし

よう」というようなものでも

す。現実との隔たりがあまりに

も、甚だしい。

政治家や経済人に限らず、いま

56年生まれ。専門は英語教育学、英語教育史。著書に「日本人は英語をどう学んできたか」「受験英語と日本人」など。

教育学者 和歌山大学教授 江利川 春雄さん

学校教育の範囲外。まず基礎を

聞き手はいずれも編集委員・刀祢館正明